

# 2018(平成30)年度学校評価総括表

教育目標	<b>愛し愛される学校を目指して</b> ① 人権尊重の精神を基調として、規律と責任を重んじ、喜びや悲しみを共有できる生徒の育成に努める。 ② 学校生活のみならず、全てのことに全力を尽くす生徒の育成に努める。 ③ 一人一人の心に寄り添い、可能性を最大限に伸ばすための着実な支援により、自立した努力を惜しまない生徒の育成に努める。 ④ 地域の方々と協働し、「地域と共にある学校づくり」を目指し、社会に貢献できる生徒の育成に努める。
本年度の学校目標	<b>生徒の夢の実現に向けた102年目の挑戦</b> ①急速に変化する社会を生き抜くたくましい精神力と体力を備えた、努力を惜しまない生徒を育成する。 ②適切な判断と決断により、勇気をもって自らが積極的に挑戦し、常に高い志をもった生徒を育成する。 ③他者への思いやりをもち、助け合いの心をもつ生徒を育成する。
本年度の重点課題	①6年間(3年間)を見据えた進路指導体制の構築(進学実績の向上・キャリア教育プランの構築) ②クラブ活動のさらなる活性化 ③教職員のスキルアップ(校内外研修の充実) ④学内外への情報発信(奈良育英の魅力の効果的な発信)

## 学校自己評価(4段階評価) A:達成度が高い B:概ね達成している C:課題を残している D:速やかな改善が必要である

年度重点目標				学校自己評価			
部	大目標	目標	具体的な取り組み・実施計画	評価指標	評価	評価の理由	課題及び改善
教務部	学習環境の向上及び情報共有の綿密化	アクティブラーニングの充実	ICT等を取り入れた授業の公開(ICT環境が整うことが前提)	公開授業数	C	大講義室の改修により、ICTを活用した授業ができるようになったが、公開には至っていない。更なるICT環境の整備が必要である。	次年度も環境整備事業を継続していく。
		学習規律の徹底	①観点別評価導入に向けて準備 ②新学習指導要領について周知	①シラバス公開内容 ②担当者の研修会参加数	B	①学校評価アンケートからも、シラバスの公開内容については概ね評価されている。②研修会参加は一部の教員にとどまるが、全教員を対象にした校内研修を実施し、周知を行った。	①②共に、外部からの情報を積極的に取り入れ、全教員に周知していく。
		様々な取り組みの公開及び情報共有	①授業見学週間の充実 ②教科指導改善プレゼンテーション(旧名称:シラバスプレゼンテーション)の充実	授業評価アンケート	B	①②共に実施、無事に終了した。授業評価アンケートの結果は、特に高校において昨年度よりも評価が上がった。	①②共に、マンネリ化しないよう創意工夫を施し、継続して実施していく。また、経験年数の浅い教員向けの研修制度等を模索したい。
		正確な成績処理	キャンパスプランマニュアルの周知徹底	成績処理にかかる時間	B	サーバーの更新により、成績処理にかかる時間は飛躍的に短縮されたが、マイナートラブルによる遅延も発生した。	引き続き周知を徹底すると共に、フォローアップ体制を充実させていく。
進路指導部	希望する進路の「保障」から「保証」へ	数値目標 国立大学20 難関私立70 中堅私立130	トップ30管理、選抜コース文系の授業改善、国立大学・難関大学への意識強化、進学補習、模擬試験受験対策・分析、学習合宿、キャリアガイダンス、土曜プログラム、学習環境検討委員会、進路指導部通信での情報提供、自習空間の提供 など	第一志望の実現 大学合格数 模試成績 シラバス数値	A	国立大推薦合格3名。 国立大受験者増。 選抜コース文系への指導強化。 協定校・指定校推薦生に対する面接指導・論文指導の強化。	組織としての進路指導部。 勤や経験だけに頼らない進路指導。 高大接続情報のアップデート(定員厳格化・大学入学共通テスト・調査書・Japan e-Portfolioなど)。
		管理体制の強化	自習室…自習ブース設置、利用状況分析、快適な自習環境の提供(環境委員連携) 朝学習…全クラスの実施状況確認 内容の検証 進路情報…教員対象説明会参加報告、来客対応記録 進路指導部と学年で共有 模試結果分析…各教科・進路指導部 学習環境検討委員会にて共有	自習室利用状況集計 生徒アンケート 各種意識調査 進路情報報告文書 模試結果分析報告 教員向けアンケート	A	概ね計画通り実施できた。 自習室改修計画は第4次まで進行。満足度アンケート結果について、86.0%が肯定回答だった。 朝学習満足度アンケート結果について、81.3%が肯定回答だった。 各種アンケートを実施し数値化することで、客観的に評価する材料が増えた。	自習室改修計画の遂行。 担当者会の定例化。 情報提供・情報共有のさらなる強化。 委員会活動(環境委員)との連携。
		広報活動の充実	進路説明会、大学入試センター試験出願説明会、高大連携協定校・指定校説明会、進路指導部通信、土曜プログラム、進路情報誌配信、各種案内チラシ配付、育英会委員会報告 など	学校評価アンケート	B	概ね計画通り実施できた。 アンケート結果において、昨年度より肯定回答が増加した。	各種説明会の実施回数増。 土曜プログラムの内容充実。 ホームページでの報告回数増。
入試広報部	『愛し愛される学校』を具現化するために、ベテラン・中堅の教員と本校に勤務年数が浅い教員の調和のもと中学校募集、高等学校募集などの入試広報イベント、入試広報業務に一元となって取り組んでいく。生徒主体で実施できる行事は生徒を前面に出していく。	高等学校の280名定員確保 クラブ推薦80・推薦70・内部生40 その他90名	塾・中学校訪問の強化 専願生の確保 特に国際理解Qコースの魅力・推薦制度のPR強化	入試広報行事参加者数と受験者数の増加	A	定員確保が達成出来なかった。	受験生を増やすために、塾訪問を更に増やす。アピールポイントの再構築が必要である。
		中学校の60名定員確保	塾訪問 ・在校生の取り組みを発信する	入試広報行事参加者数と受験者数の増加	B	ご来校いただいた方のお声は概ね高評価であった。	教員、生徒が引き続き協力して行う。(大きなクレームがなかったが、細部において配慮が必要)
		各種イベントに「クレド理念」を参入	お客様をお迎えする気持ちを大切に 職員同士のコミュニケーションを強化する	アンケートや来校いただいた方の直接の声	A	高校行事においては、例年並みに参加いただいたが、中学行事においては、参加者数を増やすことが出来なかった。	参加者を増やすために、塾訪問・中学校訪問を更に増やす。アピールポイントの再構築が必要である。
		本校行事に勧誘・参加してもらうための情報発信	スクールガイド・フリーソフト・HPにおいての広報活動説明会や個別相談会での丁寧な案内	入試広報行事参加者数	B	情報共有をするために、相談や連絡を行ってきたが、意思統一の部分で足りない点があった。	情報共有・情報交換に時間を費やし、様々なことが円滑に進むように部会を増やし意思統一を促す。
生徒指導部	たくましい生徒、高い志をもつ生徒、助け合いの心をもつ生徒を育成するための適切な指導と支援  1. 生徒が自ら自己実現を図っていくための自己指導能力の育成を目指す。 2. 生徒の夢の実現を支援するために、生徒が安心してよりよい学校生活を送れるようにする。 3. 不易と流行を常に意識し、新たな知見を取り入れ、生徒一人一人をしっかり見つめ、生徒のやる気を喚起する。	1-①基本的な生活習慣及び自己規律の確立を図るための取り組みを推進する	・年間遅刻0の生徒の割合が80%となることを目指す ・月間の遅刻率等のデータを公表する ・服装検査当日クリア80%を目指す ・各クラスでの割合を公表する	遅刻率、遅刻数 服装検査当日クリア率	C	年間遅刻0の生徒の割合が50%しかなかった。 毎月の報告が学期毎になってしまった。 服装検査当日クリア率はほぼ80%は維持できていたが、月によるばらつきが大きかった。	時間を守ることに対しての意識付けを徹底する。 毎月の報告が学期毎になってしまった。 服装・頭髪に関しては、生徒が主体的に考える機会を増やしていく必要がある。 愛校心の醸成。
		1-②基本的なモラル、規範意識の向上と実践に向けた取り組みを推進する	・登下校指導の徹底 歩きスマホをなくす 近隣住民・通学時の苦情をなくす ・交通事故をなくす 交通ルール、マナーの遵守推進	苦情件数 歩きスマホ指導数 交通事故件数	B	電車マナーの苦情2件、登下校の苦情2件(その内1件は特定できた)。自転車の事故3件。 登下校指導を行ったが、体制の見直しが必要である。 歩きスマホは減っているが、イヤフォンをしたまま歩く生徒が増えている。(ワイヤレスの普及) 交通ルール遵守講習も改善が必要である。	登下校指導の体制を構築する。 交通ルール遵守の講習を工夫する。(外部機関を積極的に活用する) 生徒会等との共同プログラムの構築。
		2-①生徒の実態を把握し、情報共有、共通理解を図り、有効な指導を展開する	・教育相談体制の充実、学年会レベルの情報共有 ・職員研修の充実	学年会担任報告の情報共有 職員研修の反省	B	学年会の情報やスクールカウンセリングの情報などが共有できる仕組みができてきた。その一方で会議のあり方を改善していく必要がある。 職員研修は緊急時の対応について行った。アンケート結果も概ね良好であった。	より多くの先生方に情報が共有できる仕組みづくり。 職員研修は、多様な生徒に対応できる力を養える研修を企画する。
		2-②校内環境の整備、評価などを含め、組織的な学校安全体制を確立する	・環境美化の徹底。不明事案の撲滅 ・避難訓練の充実	不明事案の件数	B	スイッチの押し込み等校内のいたずらは減少している。 生徒の主体的な環境美化を推進していく必要がある。 学校安全に関して改善点がある。	環境美化に関する生徒会・委員会との共同プログラムの構築。 避難訓練に関しては、防災だけでなく不審者進入に対しても実施する。
		2-③保護者や関係諸機関との連携強化を図る	・情報発信(生徒指導部通信) ・生指協、警察、サポートセンターとの連携	生徒指導部通信の発行部数 内容のフィードバック	B	生徒指導部通信の発行数は増えていた。しかしながら内容については精査し、より充実させていく。	外部機関の方の講演を積極的に導入していく。特にSNSの使い方に関するものは、速やかに取り組む。
		3-①現行の規定、ルールの見直しへの準備を行う	・生徒、保護者目線を取り入れたルールづくり ・他校やガイドラインの研究	新ルールの制定	B	タイツが導入された。服装規定の見直しは現在進行中で、今年度中に一部改変を行いたい。	新ルールの制定を速やかに進めていくとともに、こだわるところは何かを教員間で共有していく。
教育推進部	当事者意識と組織的を高め、生徒の魅力を引き出す行事・活動にする。	生徒主体の生徒会及び委員会活動の充実と連携	体育祭の種目決め、董咲祭の運営、目安箱行事でのカメラ使用等のルール作り	実施後のミーティング 反省用紙 委員会・サミットで意見交換	B	委員を中心として、部活動生徒なども参加しての自主的な清掃活動を企画するなど、主体的な委員会活動がみられたようであった。	委員会の活動量にはばらつきがある。きっかけとなるような情報や材料の提示を行っていかねばならない。
		各行事と刊行物の充実	体育祭・体育集会、董咲祭 学園通信(生徒の様子をわかりやすく)	実施後のミーティング 反省用紙	B	董咲祭では模擬店への参加学年を増やし、クラスで取り組むボリュームの選択の幅を広げた。 学園通信においては、内容を工夫するとともに、ミスのないよう部全体でチェックを繰り返した。	董咲祭について、金券制への移行は以前より議題に上がっているの、具体案を提示できるような計画を進めていく。
		部内分掌組織力向上	縦・横の連携を密にする 要項作成の計画の共有 行事に向けて、計画的に部会を実施	定期的な部会で部内での情報共有がなされているか確認	C	最終版要項の提示が計画より遅れることが目立った。また、関係する先生方との打ち合わせが不十分な内容も多く、その結果、細部の確認がなされないまま進み、混乱を招く場面があった。	企画・立案の計画を丁寧に行う必要がある。 分担任に任じてもらうこと、担当パート以外の進捗状況も確認し合える形を確立しなければならない。
中学	基礎学力の定着と生きた知識を活用する力の育成  規範意識の育成  3年間を通して、成長段階における体験学習を計画し、豊かな人間性を育成	日々の課題の提出期限を守らせるだけでなく、内容を充実させるよう指導する。 体験学習・アフタースクールプログラムにより、基礎学力の育成をする。 定期試験や学力推移調査など事前事後指導を丁寧に行う。 言語技術・奈良学・土曜プログラムにより、生きた知識を活用する力を育成する。	日提出課題を目標に、個々の生徒に達成感・自尊感情を育てる。 生徒のプレゼンテーションを通して、知識・活動を発表する力をつける。 学力推移調査の数値分析を行う。	未提出ゼロを目標に、個々の生徒に達成感・自尊感情を育てる。 生徒のプレゼンテーションを通して、知識・活動を発表する力をつける。 学力推移調査の数値分析を行う。	B	提出物や日々のテスト等について、教科担当者連携を取り、更には生徒の意識の向上に努め、実践できるよう指導すべきである。そして、すべての生徒に対し、全ての教職員が同じ対応をできるようにしなければならない。	提出物や日々のテスト等について、教科担当者連携を取り、更には生徒の意識の向上に努め、実践できるよう指導すべきである。そして、すべての生徒に対し、全ての教職員が同じ対応をできるようにしなければならない。
		授業規律を定着し、様々な研修や部活動を通して自主自律の精神を育てる。	登下校や授業開始時の挨拶を丁寧に行える。 服装検査等全員が自主的に全てクリア出来る。	登下校や授業開始時の挨拶を丁寧に行える。 服装検査等全員が自主的に全てクリア出来る。	B	クラスによって多少差はあるが挨拶すると返してくれる生徒が大半だが、自ら進んで挨拶できる生徒が少ない。 服装検査は大部分の生徒が自主的にクリアできる。クリア出来なかった生徒も直ぐにカッパして帰るなど、意識は高い。	教員自ら進んで挨拶をし、生徒の模範となるように振舞うべきであり、そこから生徒の意識の向上に努め、実践できるよう指導すべきである。そして、すべての生徒に対し、全ての教職員が同じ対応をできるようにしなければならない。
		・中1において、宿泊研修にて酪農・農業体験、社会福祉施設交流 ・中2において、職場体験にて各業種の体験と外部講師による講演 ・中3において、高校授業見学・卒業生の体験談などの実施	学校評価アンケートの肯定評価100%を目指す 活動は、ホームページを用いて情報発信する。	中1の宿泊研修や社会福祉施設との交流は生徒達に効果的であった。 中2の職場体験は新たな事業所を増やし、生徒達も一生懸命取り組めた。 中3の授業見学は生徒達の目標設定のよい機会になった。進学に向けて前向きに考えるきっかけとなった。 ホームページの発信機能にも取り組めた。	B	中1の宿泊研修や社会福祉施設との交流は生徒達に効果的であった。 中2の職場体験は新たな事業所を増やし、生徒達も一生懸命取り組めた。 中3の授業見学は生徒達の目標設定のよい機会になった。進学に向けて前向きに考えるきっかけとなった。 ホームページの発信機能にも取り組めた。	生徒との会話や一緒にいる時間を増やし、公平で丁寧な指導や対応に努め、生徒との人間関係の構築を図り、生徒の満足度を高めていく必要がある。 行事については引き続きホームページを用いて発信する。タイムリーになるよう努力する。